

香川大学創立 70 周年記念イベント事業 公開国際シンポジウム「ファイトジーンの可能性と未来 XI」を開催

香川大学創立 70 周年記念イベント事業として、12 月 9 日に、かがわ国際会議場で、植物ゲノム・遺伝子源解析センター主催の公開国際シンポジウム「ファイトジーンの可能性と未来 XI」を開催。片岡理事・副学長（研究・産官学連携・教員評価担当）の挨拶に続き、Alberto P. Macho 博士 (Shanghai Institutes for Biological Sciences)、Yagrong Cao 博士 (Huazhong Agricultural University) による海外招待講演を行いました。

さらに、10 月に連携・協力に関する協定書を締結した東京農業大学から太治輝昭先生、連合農学研究科で長期に連携する愛媛大学から安部真人先生、高知大学から阪田光和先生

にお越しいただき招待講演を行いました。香川大学からは、センター教員 3 名による研究報告と、学生を主とした 40 題以上の英語によるポスター発表を行い、活発な質疑・討論が繰り広げられました。ポスター発表後、学外研究者の投票選抜により選ばれた 4 名の大学院生に対して、深井農学部長から最優秀ポスター賞 (1 題)・ポスター賞 (3 題) が授与されました。

今回で 11 回目となる本シンポジウムは、参加者約 100 名に及ぶ盛況なシンポジウムとなり、学内外へ当該研究の重要性をアピールするうえで大変有意義なものとなりました。



トリブバン大学附属サマルパンアカデミー危機管理学研究所との間で 学術国際交流協定締結式を行いました

11 月 12 日に、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、ネパールのトリブバン大学附属サマルパンアカデミー危機管理学研究所との間で学術国際交流協定 (MoU) を締結しました。

協定書には、防災教育・研究を推進する上での教職員及び研究者の相互の受け入れや、共同研究及び研究会を行うにあたり、サテライトステーションを設置することなどが盛り込まれています。

トリブバン大学は、1959 年にネパール初の

国立高等教育機関として設立され、ネパール全土に 60 のキャンパスと 1084 の附属施設を持ち、学生数約 17 万人を擁する同国最大の国立総合大学です。

同大学とは平成 22 年 11 月に大学間協定を締結し、相互に地滑りや防災対策等に関して調査・研究交流を行ってきました。

今回、部局間での MoU を締結することで、防災教育や人材育成、減災科学等について、より一層緊密に連携することを目指します。



学術国際交流協定締結式
協定締結式 吉田機構長 (左)・サマルパンアカデミー危機管理学研究所 Gangalal 上級教員 (右)

地震国における減災研究に関する国際シンポジウムを開催

11 月 13 日に、香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は、今年で 4 回目となる「地震国における減災研究に関するシンポジウム」を約 50 名の参加のもと開催しました。地震国である日本にとって、地震・津波被害軽減研究では国際的な連携が必要不可欠です。

本シンポジウムでは、台湾、インドネシア、ネパール、トルコ、ロシア及びベネズエラの 6 か国から 9 名の研究者に講演していただきました。また、国内からは 2 名の研究者とともに、香川大学より 3 名の研究者がそれぞれの研究について発表しました。



記念品贈呈
ボアジチ大学 Gulum Tanircan 氏 (左)・白木副機構長 (右)



香川大学
経済学部長
佐藤 忍
sato shinobu

ただいま大学の同窓会が沸騰中。 香川大学「又信会」のケース。

「又信会 (ゆうしんかい)」。正しく読める人は意外に少ないかも。経済学部・法学部には「又信会」という同窓会組織があります。「又信 (ゆうしん) の名付け親は香川大学経済学部の前身である名門高松高商の初代校長・隈本重吉先生です。経済学部玄関の北側にその胸像があります。「又信」とは信義・誠実こそが人の守るべき道であるという意味です。「又信会」の会員は、高松高商を源流とする経済学部、そして法学部、さらには旧商業短期大学部の卒業生です。在学中は、「又信会」の会友ですが、卒業すれば、正会員となることができます。

又信会本部は幸町南キャンパス西端の「交友会館」1階。「交友会館」正面横には高松高商を 1931 年に卒業した元内閣総理大臣・大平正芳の胸像があります。

全国各地域に支部をもち、会員相互の親睦・交流の活動をしています。

毎年 10 月 11 月は支部総会のシーズンです。いくつか特徴的な支部について紹介しましょう。岡山支部は、就職活動中の学生を支部総会に招待してくれています。岡山県下の企業・団体に勤める先輩 OB・OG との情報交換は就職活動に役立っているようです。徳島支部は、職域単位の結束力が強く、総会への参加は組織的になされています。それゆえ若手の参加率も高いです。大阪支部は現役生との交流のために、経済ゼミ連等を招待してくれています。現役学生のプレゼンは大先輩を喜ばせています。大阪支部の名物は、「大阪ラブソディ」の大合唱です。いつまでも耳にこびりついて離れません。東京支部は「又信会」の代表といってよいでしょう。現在の東京支部長は、りそな銀行社長を経て、現在、一条工務店社長

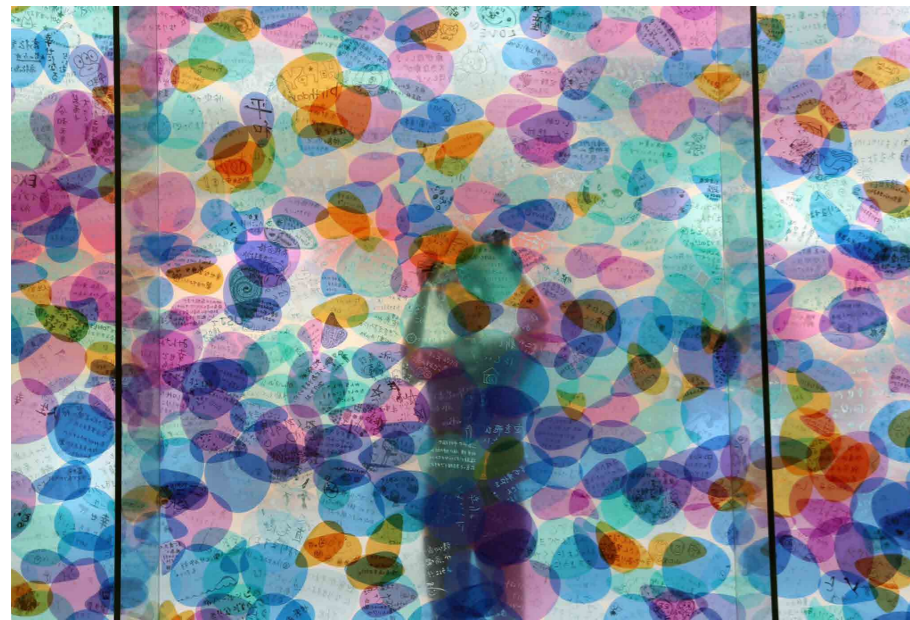
をしている岩田直樹さんです。一昨年には経済学部の学部改組記念講演に来ていただきました。岩田さんと私は、じつは、香川大学経済学部の同級生です。彼は山下隆資ゼミ (政治経済学)、私は木村正身ゼミ (社会政策) です。最後に、支部ではありませんが、香川にはふんばる会という管理職等で踏ん張る OB・OG の集まりがあります。石を投げれば、「又信」に当たるといわれるほど、地元の経済における「又信会」の存在ははとて大きいのです。ぜひ、正会員に。



木村正身ゼミの卒業旅行として雪山にスキーに行ったときのものです。一番奥で顔だけをのぞかせているのが私です。

VOICE

Seto Lumiere – 瀬戸内海の光に、人々の希望を込めて



Seto Lumiere は 1100 名以上の方が参加して創り出したアート作品です。

丸亀町商店街 × We Base (主催元のホテル) × 訪れる人々、この三者はどのような関係なのか、綺麗に共生する時とはどんな姿をしているのか、ここに私たち (香川大学生) はどう関わるべきなのかを考え、ひたすら考え、最終的に『希望』を感じられる場を創ることを目標としました。訪れた人が胸に秘めた希望を瀬戸内海の光の色を模したシールに書き、ガ

ラス面に貼り付ける。一枚また一枚と、そのシールが貼られていき、そうして最後にはガラス面が貼りつくされる。その胸の内の想いを商店街や We Base の方々が目にして共感、感動する。私たちは三者間にそんな導線を創り出しました。

この制作を通して得られた知見は、『創出は花火』、『共創は色とりどりのお花屋さんのよう』、『運営って居酒屋』の3つです。

創出について。この企画の最初はもつとぶつ飛んだものを創る予定でしたが、非現実的であったため廃案。2つ目は創造工学部の Kadapos という技術を用いたアイデアを出したのですが、コスト面で廃案。3つ目は瀬戸内海の光の色をコンセプトに並木通りを模したアイデアを出したのですが、他のイベント内容との被りにより廃案、というように様々なアイデアをだしては廃案を繰り返した末に Seto Lumiere にたどり着きました。仕込みに時間がかかりましたが、作品を見る人には完成品の一面しか見えない。アイデアを出す時って色々考察したわりに出る時はあっけなく一瞬で出る。創出は花火と似ています。共創について。人は本当に一人一人考えが違っていて、その人の生き方が一つの考えを生んでいるので、多くの人から意見を貰うと沢山の違う考えがあって、感覚的には色とりどりの花をもらっているようでした。中でも、現代アーティストの宇川直宏さんや大場先生、熱いメンバーから頂く考えは一際輝く花のようでした。使わせてもらいます！ってなんです。綺麗なので。正解は1つだけではありません、集まるといっそう綺麗になるんで

す。また、一人では決して作り出せない規模でモノづくりができることも学びました。運営について。仕事の割り振り、見積書の作成、安い業者の選別などが大変でした。そして居酒屋の店長がやっていることそのままだったので、良いマネージャーになるには、まず居酒屋で経験を積むべきです。(笑)

最後に、重要な知見がありました。ありがとうという言葉では埋めきれないほどの協力を頂いたことです。深く感謝しております。私は今回の企画で、創造、共創、運営の3要素を一つのパッケージとして経験しました。この経験は想像以上に汎用性があり、課題の質、普段の授業等に活かしています。これからはこのクリエイティブ経験を工学の分野で活かし、日々挑戦していきたいと考えています。

創造工学部 2年 上江洲弘智



企画・制作メンバー (左から、上江洲・鶴澤・稲光・太田・三谷)



丸亀町商店街の一角に作品を展示

願いを書いたシールをメンバーに手渡したあと(左上写真)見守る少年

商店街を行き交う人々に声をかけ作品前で願いを書いてもらった シールを貼り終えて一息



外国人観光客も参加してくれた

台湾からの旅行者も楽しんで参加してくれた 丸山の方からメッセージをいただいた

EVENT



11/27

中国大学生友好交流訪日団 48 名が来校外務省が実施する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環。本学で中国語を学ぶ学生 13 名と「環境」をテーマとした中国語や日本語によるディスカッションや、本学学生案内によるキャンパスツアーなどで交流を深めました。



12/2

第 1 回 英語俳句コンテスト
合計 130 名の応募のなかから、厳正なる審査の結果、最優秀賞に高橋優斗さん (医学部 3 年)、2 位に宮崎温美さん (医学部 3 年)、3 位に Alim Bican Çoban さん (インターナショナルオフィスさぬきプログラム) の作品が選ばれました。



12/4

第 5 回 ビブリアバトル in 香川大学
学生スタッフ主催によるビブリアバトル。5 名の学生パトラー (発表者) が、それぞれ「おすすめ本」を持ち寄り、5 分の持ち時間で熱くプレゼンしました。パトラーと観客の投票の結果、柴村仁 著の「ノクチルカ笑う」がチャンプ本となりました。

from International Office



ちきゅう見聞録



ドイツ・ヘッセン州

経済学部
八幡木里菜
2017 年 8 月から 2018 年 3 月まで
経済学部の交換留学制度で
ラインマイン大学に留学



留学生はフランス、トルコ、スペインなど、様々な国から来ており、いつもいろいろな言語が飛び交っていたことが印象的です。ドイツ語の授業では日本の授業よりも発言する機会が多く、先生にどんどん当てられました！



ドイツのイベントと言えばクリスマスマーケット。11 月後半からクリスマスぐらまで毎日開催されています。写真は世界一有名と言われているニュルンベルクのクリスマスマーケットです。友人と毎週、行ったことは、忘れられない思い出です。



ドイツと言えば、ビールとソーセージだと思います！どちらも地域によって様々な種類があるので、食べ比べができます。私はビールがそれほど得意ではないのですが、ドイツのビールは飲みやすくとても美味しくいただきました。

read more

